

『復興農学会』の発足と
「大学等の復興知を活用した
福島イノベーション・コースト
構想促進事業（重点枠）」
の進捗と今後の取り組み

食農学類

生源寺眞一・新田洋司

『事業名:福島発「復興知」の総合化による食と農の教育研究拠点の構築』 2020年度事業の概要

福島大学 連携市町村:川内村・南相馬市・飯舘村・大熊町
現地拠点 :双葉郡川内村上川内早渡11-24 川内村役場内 ほか

事業のポイント

震災から10年が迫る中、復興事業の見直しが進み、復興支援活動・研究の規模・多様性が急速に失われつつある。本事業は福島大学が“扇の要”となり、全国の大学と連携し、これまでに確立されてきた『復興知』の収集・整理を経て、その総合化による食と農の教育研究拠点を構築を目指す。ここで体系化された「復興知」は、福島大学の学生だけでなく、被災者・復興の実務者・全国の大学生にも還元できるスキームを構築し、福島イノベーション・コースト構想や福島の復興に資する人材育成を持続可能なものとしてゆく。

2020年度の取り組み内容

- I) 復興農学の教育研究拠点の構築に関わる取組**
- A) 「復興農学会準備会」で産学官民が連携し、復興農学の理念の構築とその推進
 - B) 復興農学研究会での「福島フォーラム」「現地ツアー」「出前講義」「先端技術体験」の企画・実施
 - C) 福島大学における学部専門教育・大学院教育への反映
- II) 復興支援研究**
- A) 浜通り地域産米の「食と農の特性」の明確化による、米粒の理化学的諸形質の調査
 - B) 浜通り地域産米の加工特性評価と魅力ある利活用開発
 - C) コメのセシウム吸収リスクの評価による世界的視野でのハザードマップの作成スキームの構築

取り組みによって得られる成果

- ① 既往の復興支援研究の成果の収集・整理・体系化
- ② 福島大学を核とした復興に関わる研究者・実務家のネットワーク化・連携促進
- ③ 全国の研究者との連携による福島大学を核とした食と農の教育研究拠点の構築

I. 浜通り市町村等における大学等や研究機関と連携した教育研究活動の取組み

○「復興農学会準備会」

- 1) 「復興農学準備会」の推進
- ※ 「復興農学会有識者会議」の推進を含む

○復興農学研究会

- 1) 福島フォーラム
- 2) 被災地ツアー
- 3) 出前授業
- 4) 先端技術体験

○学部専門教育・大学院教育への反映

- 1) 実践型教育プログラム、「むらの大学」の推進
- 2) 大学間の共同授業開講（単位互換）の検討

【教育研究】

相互運動

【復興支援・実践】

○復興支援研究（重点課題）

- 1) コメの食味評価
- 2) 水稻のセシウム吸収リスク評価と安全対策
- 3) コメの食品加工を踏まえた経営モデルの構築

II 浜通り市町村等における教育研究活動の長期的継続・拡大を目指す取組み

- 国内外の大学・研究機関
- 福島県
- 国（復興庁・文科省・農水省等）
- 福島イノベーション・コースト構想推進機構

- 被災15自治体
- NPO・市民団体
- 農業者
- 民間企業
- 復興人材・実務家
- 全国の大学生（福島大学生を含む）



「事業名：福島県浜通り産米の『食と農の特性』の明確化と地域・食育振興」 平成30年度補助事業の実績・成果

福島大学

連携市町村：南相馬市・双葉地方八町村(広野町・楡葉町・富岡町・川内村・大熊町・双葉町・浪江町・葛尾村)・飯館村

連携市町村との協定締結日：平成18年11月29日(南相馬市)、平成24年1月7日(双葉地方八町村)、平成29年4月5日(飯館村)

現地拠点：楡葉町 双葉郡楡葉町下小塙麦入31 楡葉まなび館内

南相馬市 南相馬市原町区旭町1-8 みなみそうま復興大学内

川内村 双葉郡川内村上川内早渡11-24 川内村役場内

事業のポイント

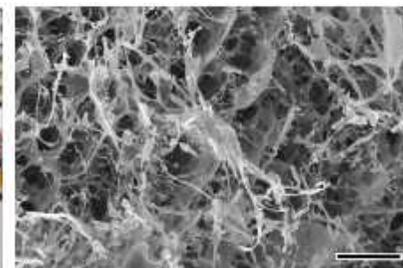
震災・原発事故以降の福島県産米の価格・ブランド力等の低下、除染水田における収量の不安定さに加え、従来から指摘されている浜通り地域産米の低調な品質・食味を改善する。まず、米のデンプン等の蓄積構造から品質・食味の定常化と向上に必要な要因を解明する。つぎに、米の品質と食味、機能性成分等を明らかにし、高品質・良食味化に必要な栽培技術に反映させる。以上より、浜通り地域産米の安全と安心を確認し市場や販売に資する情報を提供する。また、科学的成果を浜通りをはじめ県内の小・中・高校等に提供し、米生産、品質・食味の重要性、食生活の基本的スタイルの確保の大切さなどを教授する。

今年度の活動実績

1. 本事業にかかる講演・情報提供・意見交換
福島県立相馬農業高等学校における講演(3学年、9月4日)、文部科学省で「福島大学食農マルシェ」での情報提供・意見交換(10月31日)、他
2. 浜通り地域産米の「食と農の特性」の解析
浜通り地域産米の特徴を俯瞰するために南相馬市、川内村でパイロット事業を実施した。18箇所の水田で米を収穫し米粒の品質や食味特性、機能性成分、貯蔵物質蓄積構造等を解析した。また、水田土壌も分析し連関を検討した。



文部科学省前広場で開催された福島大学食農マルシェ(10月31日)



川内村産ひとめぼれ炊飯米の表面(走査電子顕微鏡写真)細繊維状構造・網目構造、膜状構造が発達している。

今年度の成果

1. 本事業の成果と実績は高校生、市民、農業従事者等に披瀝し意見交換した。
2. 浜通り地域産米の「食と農の特性」の解析
川内村および南相馬市の水田土壌は放射線濃度は低かった。川内村産ひとめぼれの炊飯米は良食味米の典型的な構造的特徴を、南相馬市産コシヒカリも良食味米の構造的特徴を有していた。機能性成分の含有も認められた。なお、品質・食味や機能性成分含有量について差異の要因を今後検討する必要がある。



南相馬市産(左2つ)および川内村産(右2つ)精米におけるアルギニン分布。

復興農学会 設立記念シンポジウム

2020年6月29日(月) 16:00~18:00
(ウェビナーによるリアルタイム配信)
メイン会場：福島大学食農学類 研究棟1階
『みらいホール』

<https://forms.gle/kv2dpYZKaWhHVBXw8>

ウェビナーによる生配信につき、事前にご登録ください。
プログラム詳細は、こちらをご覧ください。



- ・ 基調講演：武田信敏 様（福島県農業総合センター 所長）
『福島県の農業復興 - これまでとこれから - 』
- ・ 趣旨説明：生源寺真一（福島大学食農学類長/教授）
- ・ テーマ討論：復興農学会は何を目指すのか？
進行 新田洋司（福島大学食農学類教授）

主催：復興農学会準備会（大会委員長：新田洋司 福島大学食農学類 教授 nittay@agri.fukushima-u.ac.jp）

「復興農学会準備会」は、東日本大震災・原子力災害の被災地において農林水産業の復興活動を展開してきた農業者・研究者・実務家の有志らが「復興農学会」としての組織化により、当該被災地のみならず、今後、国内・外で起こりうる災害・公害も視野に入れ、持続可能で復興に資する取組みを目指す農学の体系化と実践を目指すネットワークです。本シンポジウムは、事前登録をして頂くことで、どなたでもご参加いただけます。

ウェビナーによるシンポジウムを開催

- 事前登録数：160アカウント
- 瞬間最高視聴台数：131台
- 福島大会場(みらいホール)参加者数：40人

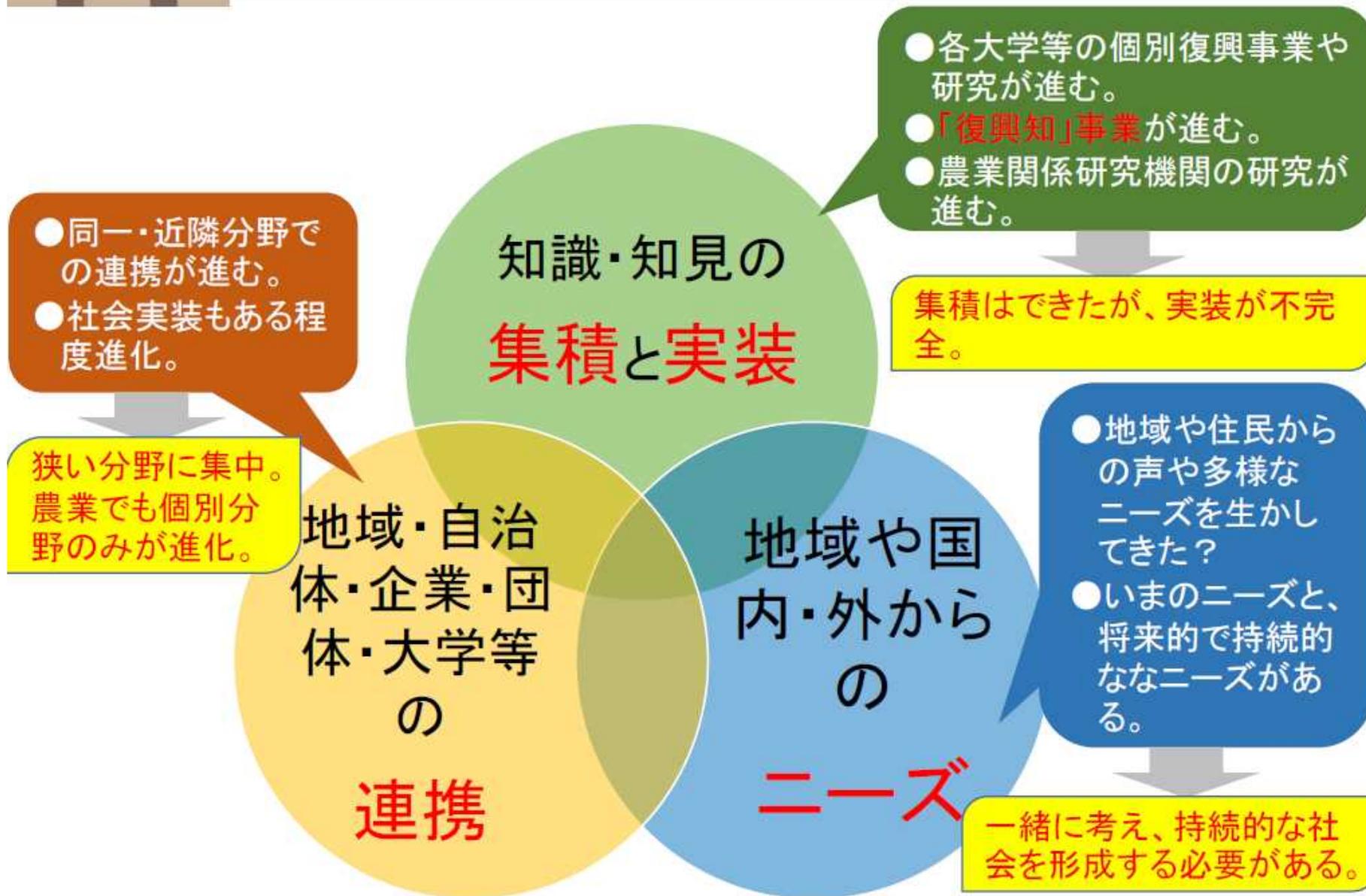
少なくとも170人以上の
参加者があった

ウェビナーによる開催 学会運営の新しい可能性が見えた！

- 告知期間が3週間程度であったにも関わらず、
想定以上の参加者があった
移動を伴わず、時間・費用の点で参加者の負担が少ない
- シンポジウムの内容をアーカイブスすることで、
後からもコンテンツを確認する事ができる
(コロナ渦後も有効な) 学会運営の新しい形が見えた！

運営上の課題 今後も試行錯誤を重ね・改善をしてゆく

運営者・参加者とも、経験が乏しく、不慣れな点も多数あった
技術的な習熟とコンテンツ作成の工夫が必要
参加者のリアルタイムな反響を運営者側が知る仕組みが必要





「復興農学会準備会」の総会を開催

- ・復興農学会の正式発足を確認
- ・会則を承認
- ・学会長に生源寺眞一氏（福島大学食農学類教授）を選定

『復興農学会』の今後の活動

福島の農業復興に加え、各種自然災害・公害
を視野に入れた産学官民を模索

今年度中に「日本農学会」「日本学会議」
への学協会登録の申請を進める

他学会との連携を模索

被災地からの現地報告集会を継続的に開催

ウェビナーを活用し、国内外に配信

共同研究・実践の企画、学会誌の創刊

大学を横断した教育プログラムの開発と提供

他、多数企画